

寺町界隈

わたしたちの町のわたしたちの情報誌。 新年号 ■発行/寺町のまちづくりを考える会事務局TEL21-3461 ■JANUARY.1997 ■Volume21

寺町界隈

わたしたちの町の情報誌。

〈前号の公開質問状について〉
公民館さんより、館報による一部の回答がなされた以外、正式な回答は、他の方からはございませんでした。また、舟券売場検討専門委員会(座長、山本直治氏)に対する質問状も8月末に公式の場で手渡してありますが、御回答はありません。

尚同委員会の答申について、8月26日一部の方が、独断で連合町内会長名の文書を作成、添付し松江市等へ提出されました。しかし、当時は、連合町内会では継続審議中の内容のものであり、その内容が地区の総意であるとの、誤解を招きかねないとの理由から、翌日、正式に取り下げられました。

〈場外舟券売場問題について〉

11月21日、一年半の審議、二度の視察会等、慎重な研究の結果、白濁地区連合会町内会(会長、山本博道氏)としての決議報告が松江市等へなされました。「距離的に無関係」と、当初から中立、棄権を表明された町内を除く、主に天神川以北の町内会による決議結果は、賛成9、反対2でした。松江市、市議会ともに、地元意見の一定の方向性として尊重はするものの、可能なら、更なる意見調整も期待しています。

また、地元選出の中村市議も、公の場で、責任をもって3月議会

までに地元の意見調整をする旨、確認されたと同っております。氏の永年の御経験、豊富な専門知識を生かして、過去2年間の研究された代案をお示し下さるか、積極的な仲介運動をしていただければ、との、議会関係者のみならず、地元でも期待をもって注目しています。

〈万代町便り〉

12月16日夜、細田重雄県議をお招きして、駅本通り商店会の会合が開かれました。同日昼の市議会での「場外舟券売場問題の継続審議の決定」を受けて、今後のことが話し合われました。

当初、「同問題」が年内解決しないときは、公共事業への協力や様々な事業計画を鑑みて、まちづくりの会の解散と我々のまちづくり案の放棄、商店会の解散も打ち出しておりました。しかし、細田県議始め関係方面の御尽力により、道路拡幅交渉は、3月市議会の結論待ちとし、年度内は凍結することとなりました。場合によっては、県道拡幅交渉や計画も、一年間予定が延びる可能性も出てきました。

また、「同問題」反対の議員さんや御町内の方にも、今のところ具体案がない模様の為、商店会やまちづくりの会も取りあえず3月までは、活動を継続することとなりました。

歩車共存のすすめ

寺本和雄(建築家)

最近、少し極端なことを断言してみても、それに対する反応を確かめてみるということをやっています。

- ①「人が集まって住むからまちであり、人が住まないところはまちではない。」
- ②「古い建築のほとんどすべては美しい。しかし現代建築のほとんど全てはみにくい。」
- ③「幹線道路以外の車道は一方通行の方が良い。」

③について述べてみたいと思います。歩行者の安全を確保しながら、人と車が共存する道路をつくる方法として、これまで両面通行であった車道を一方通行にして車道幅を狭め歩道をつくるという試みがあちこちで行われています。多くの場合、車道を雁行させたり、車道にハンプ(こぶ)をつくらしたりして車のスピードを緩める方法をとっています。歴史をさかのぼると一九七〇年代にオランダのデルフトという町でこの様な道路がはじめてつくられ、世界中に広まったということですが、これは次のような利点をもっています。

- 歩道ができて安全であるだけでなく、左右をキョロキョロしなくてすむので車道の横断体感が高まる。
- 歩道が確保できれば、街路樹も植えることができる。

平成5年11月——我々の会を始めた年——初めての視察旅行は、神戸の街であった。様々の施設、まちづくりの手法、誰と話をしても、自分の街を誇らしく語る市民たち、参加者は皆、それぞれに深い感銘を受けて帰路についた。旅行の直前、我々の思いを込めて選び、誕生したばかりの宮岡市長の前職が、神戸市助役であっただけに、感慨も一層強かったのかもしれない。

平成7年1月、阪神大震災。平成8年11月、松江商工会議所の視察団として、久方振りに神戸を訪れた。

ツチ音高く復興の進む神戸市内、足早に行き交う勤め人や若者たち。何も知らなければ、活力あふれる、大改造中の都市建設の風景と映らなくもない。

神戸市商工会議所の説明によれば、都市基盤、産業、市民生活等、平均すれば8/9割の回復という。その復興度の高さと市民の方々の御努力には感服した。しかし、残りの1/2割の復旧には、これまで以上の御努力と時間を要するであろう。社会、産業の構造転換との関連性を考慮すると、10/20年位の時間を費やすかもしれない。今、神戸市では被災中小企業の場合、自己資金がほとんどなくとも、無利息、長期返済の公的資金の貸し出しによって、復興が可能という。

しかし、50歳以上の被災者にとつて、いくら無利息とは言え、数千万円の借財を背負うのは、勇気の要ることである。5年先のトレンドの見えない昨今、自由競争の荒波は、被災者、高齢者と言えども容赦はない。

事務局長からの手紙②

寺町のまちづくりを考える会事務局長 錦織伸行

実のところ、今の駅通りの状況も、ある面、近似している。異論、反論ある中、大局的見地から、道路拡幅を推進する我々の会を信用して、公共との交渉の卓へ着いた方たちにとつて、

諸般の事情から、補償額の提示は余りにも低い。住いを半分にして立て直すとき、補償金では足らず、千万円単位の借金を考えねばならないとも聞いた。事情はどうあれ、60/70歳台の方には酷な話である。「これからの商店街は、もつと地元根ざして」「専門店化を進めるべき。」等々——部外者や消費者の声も聞く。松江市全体を考えると、公共事業へ協力しようとするとき、結局のところ、永年住みなれた地

を追われたり、多額の借財を背負わなければならない高齢者が続出するとしたら……。もしも、彼らが自分の親だとしたら……。朝日町交差点から寺町交差点。この僅か二百数十メートルの区間の「まちづくり」の成否は、その先数百メートルの駅通りの命運を、そして、この先続くであろう松江市内各所の県道拡幅と、その後の「まちづくり」のあり方まで左右する、実は重要な区間でもある。

全国的に、市街地の再開発事業の多くは、行き着くところ、永年の住民を追い出し施設を新しくしてしまうだけの結果になりやすい。最初に述べた、神戸の復興も、天災という事象面に責任を転嫁して、結局のところ、高齢者を切り捨て、目をつむって成立せざるを得ないであろう。しかし、駅通りの場合、残念なことには(？)人為的なものなのだ。個別の拡幅説明の冒頭、「宝くじに当たったようなものですワ。」と口説いた役人もいたと漏れ聞く。

幸い我々には、身に余る多くの方々のご協力と英知が集まりつつある。それだけに、安易に補助や補償の金を当てにしようとは思わないが、本当に心配して下さる議員さんや地区の方々、口先だけで、本当は腰の引けている人との差が、やがて、だれの目にも明らかになってくるのではあるまいか。(つづく)

南寺町便り

11月27日(水)寺本建築・都市研究所の寺本氏と松江市役所都市計画課の妹尾氏を講師に迎え、町内の有志(婦人会3名、南友会5名により)街づくりについての勉強会を開きました。

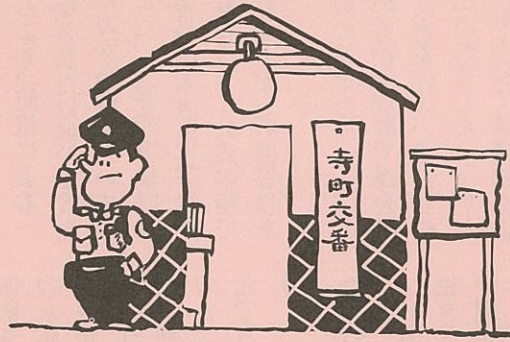
- 1 今までの行政主体の街づくりが、本当にこれで良いのか? という反省をもとに、住民と行政が話し合いながら街づくりを進める方向に、全国的に変わりつつある。
- 2 高齢者の割合が松江市内でトップの白濁地区で、今どう変りつつあるか。どうい問題を抱えているか。
- 3 街づくりには、見える部分の街づくり(住民主体)と見えない部分(行政主体)の街づくりがある。住民が見える部分(自分達の身近な事から)の街づくりを行政が手助けをする。

後半では、フリートークで白濁地区や南寺町での問題を話し合いました。1 歩道が狭い上に電柱が歩道の真ん中にある。その為、ベビーカーや老人のステッキカーが通れない。2 買い物をする店が減り、選択が出来ない。お年寄りが片道1キロ近くも歩いてスーパーマーケットへ行っている。

1の問題について、解決案として寺町の一方通行化の話が出ました。これについては、今後検討が必要だと思えます。今後、この会を定期的に開催する予定です。興味のある方の多数の参加をお待ちしております。



今、話し合われている「まちづくりの話」



全国寺町サミット

平成11年夏、日本中の「寺町」を持つ自治体が集合します。地元としては、観光というより、生活と溶けあった街としての寺町を提案したいと思います。

心の散歩道

北寺町、和多見の寺社群を抜ける小路の整備です。散策、墓参等の途中休憩用の小公園も考えられています。

心の散歩道

売布神社



万代町と旧やよい北側

防災とカラー舗装を重点に整備します。必要性によっては、「防災用」通り抜け道路も提案します。

小公園1

スティックビル



スティックビル前。大橋川と天神川の間に親水性のある“憩いの場”を作ろうという案です。同ビル内の子供施設と連携したらどうでしょう。

小公園1



旧やよい北側

小公園2

寺町十字路付近。JR松江駅と宍道湖の中間です。買物、散策の休憩用です。向かいの常教寺さんの立派な六角堂も眺められるような設計にすると、観光客にも喜ばれそうです。

小公園2



核施設

白潟地区連合町内会の多くの方から御支持いただいた方向性を重視します。地域の生活、商業を支える核となる施設を作る為、老朽ビルの買取り、建替えが絶対条件です。現在、キテナントとして場外舟券売り場が有力です。

寺社街道

宍道湖 ←

近代的なサンセット大通り(駅通り)と対比的な、寺社群を活かした道路作りです。お年寄り、子供も安心して歩けるよう歩道、停車帯を拡げます。その為に、車線を一本犠牲にしたら、という提案もあります。関係者の意向調査、交通量調査等、慎重な議論も必要です。

サンセット大通り

JR松江駅 →

サンセット大通り

JR松江駅から宍道湖へ向うシンボルロードです。広い歩道、電線の地中化と高い街路樹、透明感あふれる核施設等——、新しい松江の街並みを提案します。

南寺町

巾広い年齢層で、まちづくりの会が動きはじめています。

白潟天満宮



天神ロータリー整備

天神町々内会や商店会の方々が中心になって、ロータリー部分の公園化、高架線壁面の彩色等、計画しておいでです。

天神ロータリー

アベック道路、北側

アベック道路、北側整備

「JR松江駅～鳥取銀行高架下の整備」と「天神ロータリー整備」結ぶウォーキングトイレ計画です。取りあえず、現在ある北側歩道部分をカラー舗装したり、植栽等で整備したら、というアイデアです。

